

農 林 水 産 大 臣 賞

農 事 組 合 法 人 大 田 営 農
(埼 玉 県 秩 父 市)

【 常に新しいことにチャレンジしながら地域農業を支える集落営農法人 】

【取組の動機、主なむらづくりの内容】（平成28年4月に法人設立）

- ほ場が狭小で用排水整備も不十分で営農効率が悪かったことから、昭和63年に県営ほ場整備事業を導入した。このほ場整備をきっかけに、生産意欲が高まり、その機会を捉えて市やJA、県など関係機関が支援チームを編成。
今後の営農に関する全戸意向調査の結果をフィードバックする過程で、集落営農組織づくりが必要との機運が盛り上がり、平成4年に現法人の前身となる「大田営農推進協議会」を設立、平成28年に法人化して地域農業の担い手として活動中。
- 地区の水田50haの3年一巡ブロックローテーションを現在まで継続し、小麦、大豆、水稻の3品目の輪作による生産性の向上。【33年間継続】
市内の酪農家との耕畜連携により飼料稲3.5haを栽培し、飼料の高騰対策を実施。
- 特徴あるウイスキーを作りたいとの地元ウイスキー会社からの要望により、原料の大麦生産を担い、約100年前に埼玉県が選抜育種した品種「ゴールデンメロン埼1号」の栽培を平成28年産から開始。同品種は長稈で栽培が難しいものの、試行錯誤しながら毎年供給。【現在は約7haに拡大】
- 秩父市から依頼を受け、農薬や化学肥料の使用量を低減し、市が推進する土づくりにも配慮した農産物（水稻、ばれいしょ、たまねぎ等）を栽培し、市内の全小中学校（21校）の学校給食に提供。
- 秩父市と姉妹都市提携している東京都豊島区の子供たちに田植、稲刈りなどの農作業体験を、協議会時代から長期にわたり大田営農が中心となって実施し、延べ2,800人を受入。



大田営農組合員（役員）



二条大麦の収穫作業



学校給食で提供された「華麗舞」のカレー



豊島区との稲作体験交流